

# 令和6年度第3回月形町学校運営協議会議顛末

## 1 開 会

### 【上葛事務局長】

- ・ 開会の前に本日の流れについてご説明します。
- ・ 開会后、本日兼平教育長が同席されていますのでご挨拶をいただきます。
- ・ その後、高畠会長からご挨拶をいただいたきます。
- ・ 議題に入り、3報告事項として、(1)「スクールランチ試食会アンケート結果について」と(2)「義務教育学校建設事業について」を教育委員会から説明いたします。
- ・ 次に4協議事項(1)全体協議アとして、「令和6年度月形小学校評価及び月形中学校学校評価について」、イとして「令和7年度月形小学校学校経営方針及び月形中学校学校経営方針について」と議題ではなっておりますが、実際は小学校を島校長から6年度の学校評価、7年度の経営方針を一括説明をいただき、学校評価、経営方針ごとに審議、承認をいただきます。続いて中学校橋本校長から同様に6年度の学校評価、7年度の経営方針について説明をいただき、学校評価、経営方針ごとに審議、承認をいただきます。
- ・ 全体協議後は、議案書では(2)部会協議となっておりますが、時間が押すことが予想されますので、先に(3)その他を行い、協議会を閉会いたします。協議会を閉じたのち、部会協議を行い、終了次第各部会ごとに流れ解散となります。
- ・ これまで2回の協議会では、部会協議の時間を設けることができませんでしたので、本日の部会協議では、9月の第2回協議会で義務教育学校の建設を見据え、専科教員や加配、教員免許などのご意見が出されましたので、そうした教員の人事や学校経営について、熟議をいただきたいと思います。
- ・ 本日の全体協議・部会協議結果は、追って皆さんにお配りしたいと考えております。
- ・ 時間配分につきましては、報告事項、協議事項で1時間程度、その後の部会協議を30分程度とし、午後6時には終了したいと思います。

それではただ今より「令和6年度第3回月形町学校運営協議会」を開催いたします。

◎ 兼平教育長挨拶

【上葛事務局長】

- ・ 前古谷教育長の後任として昨年11月9日に教育長に就任いたしました兼平新教育長からご挨拶をいただきます。

【兼平教育長】

- ・ 昨年11月に教育長に就任しました兼平でございます。どうぞよろしく申し上げます。
- ・ 委員の皆様におかれましては、学校運営協議会委員としての仕事はもとより、常日頃月形の教育にご理解とご協力をいただいておりますことに心から感謝を申し上げます。
- ・ 私は2010年6月から2013年3月まで月形中学校の校長として、月形におりました。その頃もそうでしたし現在もそうなんですけれど、子どもたちはとにかく元気いっぱい、そして一生懸命勉強しています。というのは、変わらずにこの月形にいて非常に喜ばしく感じているところです。
- ・ そういう月形の子どもたちですから、もっと色々なことができるようになるのではと内心想っているところです。
- ・ 委員の皆様方には是非こういうのを学校がもっとやってくれたら子どもたちに非常にいいんじゃないか。こういうことができたならもっと楽しいんじゃないか。そういうご意見を忌憚なく、たくさん出していただければと考えております。
- ・ また、説明がありますけど今日道新に記事が出ておりまして、義務教育学校建設に向けて大変お騒がせと心配をおかけしておりますことを心からお詫び申し上げたいと思います。決して私は不満を表明している訳ではないのですけれども、ストーリーができあがっているなという感じで読ませていただいたところです。それについては、この後、事務局のほうから説明をさせていただきたいと思います。
- ・ 今日は盛りだくさんな案件でご苦勞おかけしますけれどもよろしくお願いいたします。

【上葛事務局長】

- ・ ありがとうございます。兼平教育長におかれましては、公務の都合でここで退席

させていただきます。

## 2 会長挨拶

### 【上葛事務局長】

- ・ 開催にあたりまして、高畠会長よりご挨拶申し上げます。

### 【高畠会長】

- ・ 皆さまお疲れ様です。お仕事お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。
- ・ 先ほど教育長からもありましたけれども月形町の教育行政、町外からも耳目を集めている状況にあるかなと思います。それでも変わらず子どもたちは学校に行きますし、学びは深めていかなければならないところです。是非委員の皆様には鋭意慎重審議いただいて、子どもたちのより良い学びを得られるように皆さんに力をお借りして、議論をいただければと思います。
- ・ 今日長丁場となると思いますが、皆さんどうぞよろしく願いいたします。

### 【上葛事務局長】

- ・ それでは以降の進行につきましては、高畠会長が議長となり進めます。高畠会長よろしく願いします。

## 3 報告事項

### (1) スクールランチ試食会アンケート集計結果について

#### 【高畠会長】

- ・ それでは、3 報告事項（1）「スクールランチ試食会アンケート集計結果について」加藤主幹説明願います。

#### 【加藤事務局】

- ・ 別紙資料1の1ページをご覧ください。
- ・ 昨年7月に2回に渡り、小学校及び中学校にて開催しております。
- ・ 試食会の目的としては、「今後の学校給食の在り方を検討するにあたり、民間事業者によるスクールランチについての理解を深めることとしています。」事業者名は、コープさっぽろで、試食メニューは記載のとおりです。
- ・ アンケートについては、7月10日及び7月17日の試食会参加者を対象として、

実施をしています。回答数合計は203名となっています。内訳としては、児童生徒、保護者、教職員、教育関係者となっています。

- 学校運営協議会の委員の皆様にも7月17日の中学校で行った試食会に多数の方が出席いただいております。ご協力ありがとうございました。
- 2ページから5ページに当日のそれぞれのメニューに対する味と温度管理についての評価を載せています。時間の都合もございますので、詳細については控えさせていただきますが、グラフの赤色とオレンジ色が肯定的な意見となりますので、ほとんどの項目で7割以上が肯定的な意見であったという結果になっています。
- 続いて、6ページをご覧ください。「スクールランチは現在の学校給食の代替になると思いますか」という設問です。ここからは、大人のみので設問となります。「給食の代替になると思う」「どちらかという給食の代替になると思う」「どちらかという給食の代替にならないと思う」「給食の代替にならないと思う」の4つの選択肢から選ぶかたちの設問です。
- 全体の約8割が「給食の代替になると思う」または「どちらかという給食の代替になると思う」という回答です。保護者についても8割以上が「代替になると思う」という回答をしている一方で、教職員については、肯定的な割合が一番低く、6割を切るような状況となっています。
- 続いて、7ページをご覧ください。先程の設問と関連いたしますが、「今後の学校給食の在り方についての考えをお聞かせください」という設問です。選択肢としては、「1スクールランチ導入により、民間ならではの多彩なメニューで栄養価についても配慮されているのであれば導入したほうがよい【スクールランチ導入】」「2スクールランチ導入により、町の財政負担の軽減が図られるのであれば、導入したほうがよい【スクールランチ導入】」「3子どもたちへの学校給食は、町の財政負担が今後増加したとしても、今までどおり、継続をしたほうがよい【現在の学校給食を継続】」「4学校給食は食育の生きた教材であり、教育・安全性の面からも今までどおり学校給食を継続したほうがよい【現在の学校給食を継続】」「5安全・安心な昼食が子どもたちに提供されるなら、どちらでもよい【どちらでもよい】」の5つから選択する形になっています。

- ・ 保護者については、1番または2番の【スクールランチ導入】を約4割（38%）が選択。3番または4番の【現在の学校給食を継続】を約3割（28%）が選択しています。保護者については、ややスクールランチ導入支持の割合が高い状況です。教育関係者についてはさらにその傾向が強く、【スクールランチ導入】支持が約6割（55%）が選択。【現在の学校給食を継続】を約4割（35%）が選択している状況です。
- ・ その一方で、教職員については、傾向が逆転しまして、【スクールランチ導入】支持が約2割（17%）、【現在の学校給食を継続】支持が約6割（61%）となり、教職員については、その比率が逆転しているような状況です。
- ・ 全体としては、【スクールランチ導入】支持が約4割、【現在の学校給食を継続】支持が約3割、「安全・安心な昼食が子どもたちに提供されるのであれば、どちらでもよい」が約3割という状況で、全体の約7割はスクールランチ導入に否定的ではないという状況です。
- ・ 8ページ以降に自由記載について全てを掲載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。
- ・ こちらについてのアンケート結果をもとに11月6日に学校給食センター運営委員会を開催いたしました。本日までご出席いただいている方も何名かいらっしゃいますが、小中学校の校長先生、小中学校のPTA会長さん、学校栄養教諭、学校薬剤師の6名で組織されています。学校給食の運営に関わることを協議する組織となっております。
- ・ 給食センター運営委員として、スクールランチが学校給食の代替になり得るのか、そして、今後の学校給食の在り方について、一定程度の委員会としての方向性を見出すことができればと協議を行いましたが、全体の意見としては、現在の学校給食を支持する声が多いという状況でした。そして、この試食会とアンケート結果により、方向性を決定するのも難しいのではないかという意見も多くいただきました。
- ・ また、委員さんの中から、スクールランチに関する懸念のご意見がございました。その懸念される点というのは、安全性についてです。試食会に参加された方々に安全性についてアナウンスがされていない中でのアンケート結果（比較的肯定的な意見が

多い結果)であるため、この結果を参考に今後の方向性を検討するのはいかなるものかという意見がございました。

- ・ その懸念事項については、試食会実施の前にもコープさっぽろさんに確認をいたしました。国よりも厳しい独自基準を設けて調理されているということで、当然、安全性において問題ないという回答はいただいておりますし、すでに3つの自治体でスクールランチを導入済みであります。今回、あらためて、この心配をされている点についてコープさっぽろさんからの正式な回答をいただくこととしております。
- ・ このアンケート結果を保護者の皆様にお知らせする際には、コープさっぽろさんからの回答を添えて、配付をするということで運営委員会で決定をいたしましたので、コープさっぽろさんからの正式回答が届き次第、保護者、先生方、教育関係者の皆様へお知らせをする予定となっております。
- ・ 現在、児童生徒分の学校給食費については、令和5年度から無償化としておりますが、原材料費や人件費の高騰が続いていることに加えて、給食センターの老朽化や、人材不足の課題もあります。そういった課題を抱える中で、本町については昨年度より児童生徒分の学校給食費については無償化としています。今後将来に渡って、今の学校給食を維持していくということであれば、元の給食費のかたちに戻す必要性も出てくる可能性もゼロではないと考えられます。国のほうでも学校給食費無償化検討の話もあるわけですが、まずは今回スクールランチがどのようなものであるかということは知ることができたきっかけにはなりました。今後の学校給食の在り方について、給食センターの老朽化も喫緊の課題として迫っておりますので、引き続き皆様のご意見を伺いながら課題事項として検討を進めていきたいと考えております。
- ・ 以上「スクールランチ試食会アンケート集計結果」のご報告とさせていただきます。

**【高島会長】**

- ・ (1)「スクールランチ試食会アンケート集計結果について」の説明が終わりました。ご質問等がありましたらご発言願います。

(質問なしの声あり)

**【高島会長】**

- ・ ご発言がないようですので、本件は報告済みとさせていただきます。

## (2) 義務教育学校建設事業について

### 【高島会長】

- ・ つづいて(2)「義務教育学校建設事業について」加藤主幹説明願います。

### 【加藤事務局】

- ・ 本日、ご出席されている委員の方々の中には、義務教育学校開校準備委員会の委員も兼任されている方も大勢いらっしゃいますので、説明内容がすでにご承知の内容となりますがご了承ください。
- ・ 義務教育学校建設事業につきましては、令和9年度の開校を目指し昨年3月に基本設計を策定いたしまして、今年度中に実施設計を完了し、令和7年度からの工事着工という予定で進んでいたところです。
- ・ 大まかな経過については、資料に沿って、後ほど説明させていただきますが、令和7年度中の着工については延期をするということが町の方針としては決定している状況となっております。
- ・ それでは別紙資料2-1をご覧ください。ペーパー1枚ものになります。
- ・ 10月22日の議会全員協議会にて、事業費等の増を受けまして、財政推計等を**元基**に当初11月末までに判断することとして説明がされました。
- ・ そして、12月3日の議会全員協議会において、建設判断を一旦立ち止まり、計画を見直すことを町議会へ報告しております。
- ・ 翌日12月4日に北海道新聞にこのことについて記事が掲載されております。
- ・ 12月19日の総合教育会議（町長と教育長と教育委員2名で構成）にて早期に財政の裏付けをして、しかるべき判断をすることとして決定しています。別紙資料2-3として総合教育会議の議事録を配付しておりますので、お時間のあるときにお目通しをいただければと思います。
- ・ このことに関連して、翌日の北海道新聞と12月25日の建設新聞に記事掲載されています。後ほどご覧ください。
- ・ 1月15日の議会全員協議会では町の財政推計を示したうえで、1月末までに建設時期の判断を行うことを議会へ報告しています。

- ・ そして、2月1日の北海道新聞にて、1月末までの判断について、「町民への理解が十分でない」と判断して、令和7年度予算への計上を断念した旨の発言が掲載され、その後、2月13日の総合教育会議において改めて、令和7年度での着工を見送ること決定しております。
- ・ 翌日の2月14日には北海道新聞と建設新聞で記事掲載がございましたが、別紙資料2-2 6ページの建設新聞のとおり、最短で令和8年度での予算計上を目指すというのが現在の町の基本的な方針となっております。
- ・ そして、直近として2月19日に開校準備委員会を開催しまして、あらためて町長から令和7年度の着工見送りと最短で令和8年度での予算計上を目指す旨、報告をしている状況です。
- ・ それと、本日の北海道新聞に記事掲載がありましたので、資料2-2の最終ページに添付をしております。こちらについても後ほどご覧いただければと思います。
- ・ 以上が義務教育学校整備に係る状況についてのご報告となります。
- ・ 建設については、最低でも1年延期という状況ですけれども、3月末までの実施設計策定については予定どおりに進めている状況です。現在の事業費については、9月末時点で総事業費として約47億円という状況ですが、今後も物価上昇や労務費単価の上昇は想定される場所ですが、併せて、建物及び外構工事について、仕様や設備の変更を検討して、事業費の圧縮について検討していくこととしております。
- ・ 以上、義務教育学校建設事業に係る状況のご報告とさせていただきます。

**【高島会長】**

- ・ (2)「義務教育学校建設事業について」説明が終わりました。ご質問等がありましたらご発言願います。

**【津坂委員】**

- ・ 建設をやめるという話ではないんですね。

**【上葛事務局長】**

- ・ 町長の発言では最短で令和8年度以降の建設を目指したいというものです。

**【津坂委員】**

- ・ 確かに新聞紙上でも建設費が大幅に上がっている、道教委からの助成率の間違いな

どにより町の負担が増えるというのは重々わかるのですが、私、義務教育学校の設置検討委員会にいさせてもらって、小学校・中学校をそのまま使って建て替えるよりも義務教育学校にしたほうが良いという内容の中で答申させてもらったのが、一昨年の春ですね。

- この2年間、令和9年からの開校を目指す。令和7年から着工するものだと思っていた。2年間の間予算の工面は何もしてこなかったのかという話なんですよ。
- それと仮に年間1億円予算計上していたとしても、それが支払っていくお金が1億5千万円になりました。1億予定していたけどそれより増えたから、だから考えるんだっていうことでなくて、その返済を先延ばしするという方策は取れないのかというのが、1点
- ふるさと納税の分が出てきていないんですよ。総合教育会議の中で副町長の答弁があるんですけど、ふるさと納税の部分について基金を積んできたというか、町としてそういうことを一切してきていなかったんですか。今日は教育委員会の皆さんですから、教育委員会の皆さんに聞いても出てこないかも知れないですけど、ふるさと納税、売れ行きいいですよ。売れ行きが良く4億あるんですよ。確かに返品だなんかで半分なくなるとしても2億残るんですよ。それがどこ行っちゃうんですか。そういう話なんですよ。
- だから設置検討委員会で、小学校、中学校を近い将来建て直す。水道関係・水回り関係で不具合がなければいいですよ。そういうことが出てきたら何千万も多くかかってきてしまうという話もありました。それだったら建て替えてしまえっていう話になった。それは、教育委員会の皆さんも重々わかっておられるんだと思うんです。
- 今回の新聞をにぎわしている、建設の先送りをすると建設費については、来年になったらまだ上がりますよ。人件費も資材も上がっている。来年度予算しようと思っても見送りしますかって、そんな話になったらいつまで経っても建てられません。そういう部分はやはり教育委員会として、教育長しっかり町長に進言していただいてもらったらいいじゃないですか。もう設立準備委員会の話を聞く機会があったんですけど、準備委員会のなかは今、私たちがやっていた設置検討委員会のレベルまで話が戻ってるっていう話もちらっと聞きました。そんなとぼけた話ないじゃないですか。

そういった部分をしっかりしていかないと、いくら口で子どもは月形の宝だなんだと  
いって見たところで子どもたちをどうしてくんですか。そりゃ人数は少ないですけど  
その子どもたちをどうしてるんですかということですよ。少しでもお金がかからない  
ようにやることについては今立ち止まるのではなくて、先延ばしするのではなくて、  
今年からやったほうがいい。私個人的な意見ですけどそんなことを思ってます。以上  
です。

**【上葛事務局長】**

- ・ ご意見色々ありがとうございます。津坂さんがおっしゃったこと、正にそのような  
話で私たちも認識していて、そのように進めさせていただいたつもりです。審議会の  
方でも色々ご意見いただいて、今ほど言われたとおりですね、今言ってる議論とい  
うのはほとんど審議会で尽くされてる議論というのは正にそうで、そのことも色々ご説  
明をさせていただいたところです。
- ・ 結局は町の財政の話になるので、全体の財政がどうかという町としての見解はちょ  
っと委員会では述べられないですけども、今ひとつひとつ話しますと、例えば2年間  
の間に何もしていなかったのかというと、もちろんそうではないです。ただ実際に  
元々26億とかが47億になってますのでその状況の変化もあって財政推計を見直  
したというのは事実であります。その間に全く考えてなかったわけではないというこ  
とと、少し財政負担が変わっていったということも事実でありますので、そのよう  
に認識しております。
- ・ それから負担が1億から1億5千万になったとしたら償還期間を延ばせばいいとい  
うのは正にそのとおりだと思います。例えば20年で償還していたものを30年で償  
還すれば1.5倍ということになりますので、ごもっともなご意見だと思います。そ  
ういう方策もあるのではないかと思います。
- ・ あとふるさと納税ですね。当初4億のものが7億ぐらいに今年なっています。その  
うち返礼品の経費というのが半分ぐらいなので、例えば、仮にわかりやすく8億とし  
たら4億残ってそのうちの半分が子どもたちのための分ということなので2億使える  
とになります。今、基金自体も4～5億、おそらく令和7年度に繰越すものは7億ぐ  
らいになるでしょうから基金としてもその半分で3億。ということは既に子どもたち

のためにある基金というのは3億以上あって、そして子どもたちのために使えるのは、このまま行けばですけど、毎年6億くらいあるとすれば、1億から2億くらいが使える財源となります。ただ水物ということもありますので一概にあてにすることはできないけれども、当然用途としては計算できるのかなと思います。正にこの件についてもそのとおりだと思います。

- ・ それから先ほども言った、今の校舎の水の関係ですね。水道管が50年経ちますので、だいたい水道管が壊れる。よくご存じだと思うのですが、中学校も小学校でも水道管を改修すると本当に億に近いくらいかかると思いますので、それが待たなしにやってくる状況かと思っています。
- ・ この学校の水道の交換であるとか、それから蛍光灯の製造も終了するのでそういったものもどんどん重なってきますし、延ばせばいいというものではないという点もおっしゃるとおりかと思っています。
- ・ 工事費が上がるというのも全くそのとおりです。私どももその辺の説明は尽くしてきたところなんですけれども、やはり人も変わったりとかもありまして、議論が差し戻ってしまうところも非常に痛いところです。先ほどの色々なご意見をいただいたことは非常にありがたい機会かなと思います。意見として集約させていただきたいと思っています。以上です。

【高畠会長】

- ・ よろしいですか？

【津坂委員】

- ・ ふるさと納税7億？まあ8億？

【上葛事務局長】

- ・ 7億くらい。今年はですね。

【津坂委員】

- ・ それであれば、そっちのほうから今回その義務教育学校の建設のためにという部分で、例えば7億あったら3億5千万半分残ったとして

【上葛事務局長】

- ・ 経費が半分ですので

【津坂委員】

- ・ いや、だから7億あったら3億5千万残るわけですよ。経費で3億5千万かかりました、3億5千万全てその建築費に充てられていく訳ではないけれども、2億8千万くらい義務教育学校の予算分として基金で積むとか。

【上葛事務局長】

- ・ 3億5千万からさらに用途別になってまして、子どもたちのためというのが大体半分くらいですね。

【津坂委員】

- ・ 自分もふるさと納税したことがあるので、町のためにだとか、子どものためにだとか、公共のためにだとか、そういったその寄附する側の意向の部分は確かにあるんです。でもそれって寄附した人は分からないですよ。私も本州のまちにふるさと納税して、子どもたちにと公共のためにって言うところ、本当に使ってるか分かんない、そこら辺は臨機応変に金に印付いてないんだから。それよりも今待ったなしの状況でないかなって私は思うんです。全てじゃなくてもその色んな部分に割り振らんきゃなんないって部分は分かりますけど、そうじゃなくて少しこっちのほうに、今やらんきゃなんない部分、そういったところに少しさじ加減をして財政の工面をするってような方策、それは俺はできるような気がするんですけど
- ・ 子どもたちのために本当に待ったなしですよ。先延ばしして、二年間、それが一年延びると三年間、この間に小学校中学校で大きな事故がなければいいですよ。古い建物ですから、それだけリスクが伴ってくるんですよ。そういった時に余計な金がかかってしまうってことですよね。さっき上葛次長も喋っておられたので、その話もう重々してると思うんですが、私はどうも無駄金みたいな気がして、どうせ建てるならちゃっちゃとやっちゃえて、ちょっと口悪いんですけど、私はそう思うんですよ。本当に延ばせば延ばすだけ良いことってないと思います。本当に町長何を考えているのか良く分からないんですけど。長くなりました。すいません。以上です。

【上葛事務局長】

- ・ もう少し補足させていただきます。ふるさと納税ですが、お金に色は付いていないんですけども、基金に積むときに目的別になっているんですよ。基金に積む時にもう

すでに色が付いてて、寄附者の意向に沿って使うというルールになってるものですから、そのところは外せない。それでもやっぱり子どものためっていうのが寄附者の半分いますので、そういう意味では結構な額になります。

- ・ もう一つ言っておかなければならないのは、7年度着工というのはもう無理なんです。というのは、補助金をもらわなきゃならないので、7年度で建ててるのに補助金をもらうのは今年1月末までに手続きをしないと7年度補助には乗れないので、これも7年度着工は無理ということの決断をされた、と解釈をいただきたいなと思います。
- ・ リスクが増してるというのはもうそのとおりですし、複式も現実的に発生します。懸念ではなくて発生します。令和9年度には複式が出ますので、そのこともリスクとしてあらかじめお話をさせていただいたんですが、こういう結果になったということでございます。委員会としては以上でございます。

#### 【高畠会長】

- ・ ありがとうございます。貴重なご意見というか、みんなどこかで思ってる部分もあるのかなと思いますので、代表して言って下さったので、感謝しています。ありがとうございます。
- ・ その他、ご意見ある方いらっしゃらないでしょうか。

#### 【齋藤委員】

- ・ 質問なんですけど、ちょっと私無知過ぎてあまりよく分からないんですけど、建物を縮小するとか材質を変えるとか、そういう話は出ていないのでしょうか。

#### 【上葛事務局長】

- ・ 縮小という話なんですけれども、審議会でも言ってらっしゃったんですけれども、当然人口減少というのは当初から分かっている話ですので、建物をコンパクトに建ててくれというのが審議会の答申の望みでもありました。私たちもその答申を踏まえてできるだけコンパクトに設計したのが現状なんです。その中で今は120人くらいいますので、一回その器は入れなきゃだめですので、仮に50人になるのが分かっているからといって50人の建物を建てれるわけにはいかないんで、一回120人の器に入れる必要があります。

- ・ 小学校と中学校で使ってる用具も違いますので、例えば体育の用具、吹奏楽もまだ分かれていますし、そういう物も一回校舎に入れないとだめなのです。体育の授業も他と重なったり、理科室が重なったりするのでサブアリーナはやはりいるのかなとか。ただ教室の中でも音楽室と視聴覚室を一緒にしたりだとか、パソコン室と図書室を一緒にしたりとか、美術室と技術室を一緒にしたりとか、しかも中学校と小学校も合わせて一つの特別教室にしました。教室の面積は通常8 m×8 mなんですけれど、7 m×7 mに一回り小さくするとかできるだけコンパクトにしてやってきたのが現状で、色々もっと小さくできるんじゃないかとか言われてますけど、たぶんこれ以上小さくすると恐らく教育効果を削ぐような結果になると思われれます。設計会社とか他に第三者も入れて煮詰めた結果で、無駄なく作ってきたというのが正直な感想です。本当はもうちょっと大きく造って、言われたら小さく造るという方法もあったのかもしれないけれども、そういうルートはたどってこなかったんで、最初からそこは鋭意努力させていただいたというのが正直なところですよ。
- ・ 材質を変えるとか何かをやめるとかそういうことはできます。例えばメディアセンターというのがあって、そこは地域開放もできるような形で考えているんですけど、そのセキュリティを止めることもできるんです。ただ、開放してるエリアは子どもたちが少子化すると子どもたちのふれあいがなくなるので、そういう大人と子どもたちの交流の場であったり、教育的な配慮ですね。
- ・ それから避難所にもなりますので、避難所のとくに利用できるような体制であるとか、新しい学びを実現する学校施設の在り方でも交流を主体としているとか、避難所になったときには学校の授業をすぐ復旧できるようにセパレートするとか。色んな要素があって作っているんで、やめてもいいんですけど、そういうことはなくなりません。減額することはできるんですけども、その分何かを削いでいく選択もしていかななくてはなりません。
- ・ この学校建設というのは学校統合で今、割と高い補助がもらえるので実質の負担は2割～3割程度なんです。イニシャルである程度掛けたほうがランニングがかからない構造になっているので、後から何か欲しいとくっつけるよりは、安くできるうちにしっかり設備をしたものを整えていくというコンセプトのほうが、町の財政的にも

有利じゃないかなと考えてるところです。

- ・ 面積については正直、もし削れと言われれば削れるかもしれないけど、本当にいいですかということと、他の仕様についても落とせるけれども、例えば太陽光とか落とせるけれども避難所として冬の電源落ちた時とか、そういうのはなくなりますよ。そういうのと隣り合わせになるので、そこらへんがお金と効果も妥協できるのか。太陽光にしても、避難所だけじゃなくて環境教育とか、色んな要素があるので、そういう面を考えると本当にただお金だけで落とすことがいいのか、やはり考えなければならぬと思います。すいません、長くなりました。

【齋藤委員】

- ・ ありがとうございます。
- ・ あともう一点なんですけど、学校の建物を建てる時って寄附を募るとかクラウドファンディングとか、そういうことはできないんですか。

【上葛事務局長】

- ・ できます。大体が工事と並行してクラウドファンディングをやってくのが流れです。ただ、単純にクラウドファンディングと言っても、クラウドファンディング自体が目的に対して寄附をするので、学校建設するからお金をくださいということでは集まらないんですね。例えば月形の町でもこういう教育を目指したいとか、こういう効果があるから社会に貢献できるんだとか、環境的に何かしているだとかそういう目的があって初めて建設することに対して寄附したいと賛同を得られる構造なので、そのコンセプトをどういう風に持っていくかということは考えなければならぬ。例えば月形で良い人材を育てることで社会に貢献してくとか、そういう何か志みたいなものがあるのが大事かと思うので、そういう方法も私たちもと検討しながら進めてというのはございます。実際にはできます。

【齋藤委員】

- ・ ありがとうございます。

【高島会長】

- ・ その他にご意見いかがでしょうか。

(質問なしの声あり)

**【高島会長】**

- ・ ご発言がないようですので、本件は報告済みとさせていただきます。
- ・ 以上で3報告事項を終了します。

4 協議事項

(1) 全体協議

ア 令和6年度月形小学校学校評価及び月形中学校学校評価について

イ 令和7年度月形小学校学校経営方針(案)及び月形中学校学校経営方針(案)について

**【高島会長】**

- ・ つづいて4協議事項に入らせていただきます。先ほど申し上げましたとおり、ア令和6年度評価とイ令和7年度学校経営方針を学校ごとに一括説明を受けます。
- ・ まず「令和6年度月形小学校学校評価及び令和7年度月形小学校学校経営方針(案)について」島校長説明願います。

**【島委員】**

- ・ 改めまして小学校、島でございます。どうぞよろしく申し上げます。
- ・ 委員の皆さんには日頃から本校に対するご支援とご協力をいただいておりますことに改めて感謝申し上げます。
- ・ 実は昨日ですね、参観日がありました。大変多くの保護者の皆さんに授業を参観していただきました。授業後の懇談会も大変多くの保護者が残っていただいて、お子さんに対する期待は当然のこととして、学校に対する期待も大きいなということを改めて痛感したところでございます。
- ・ 月日が経つのは早いもので令和6年度も残すところわずかとなりました。明日から数えて今年度の登校日が16日しかございません。6年生にとっては13日となるところでございます。
- ・ 現在学校はですね、卒業生18名をしっかりと卒業させるべく、在校生をしっかりと進級させるべく、今年度の総仕上げとしてまとめとして教育活動を展開していると

ころでございます。また4月には新一年生6名を迎え新年度をスタートする準備も合わせてしているところです。

- では本校の令和6年度の学校評価と令和7年度の経営方針について説明をさせていただきます。説明は主にパワーポイントとさせていただきますが、必要に応じてお手元の資料を参照していただければ幸いです。なお、お手元に別紙で週刊「みなみ空知」をお配りしていますが、これは本校のみが当該となるのではございません。月形町の教育活動ということで参考として読んでいただければと思い準備をさせていただいたところでございます。
- それでは最初ですね。紙の方の資料の一枚目をめくっていただいて自己評価について説明をさせていただきます。この自己評価、大枠での評価になろうかと思えます。
- 一つ目、「教育経営方針の内容が適切であったか」については、今年度、「自ら学び高め合い、笑顔あふれる月小の子」を重点目標にしてキーワードにして、あいさつ、笑顔、満足、これを具現化するに向けて取り組んできたところです。
- 二つ目の「教育目標を実現するためのものになってるかどうか」ということにおきましては、教育活動をコロナ禍及びそれ以前の活動を踏まえながら適宜見直しを進め、改善等を進めてきたところです。児童アンケートにおいて「学校は楽しいですか」という肯定的回答は8割強ありました。ただ8割強では正直満足するわけにはいきません。更なる工夫改善を進めながら取り組んで参りたいと考えています。また児童、保護者のアンケートにおいて本校の教育活動を概ね肯定的な評価をいただきました。しかしながら否定的回答や、分からないという回答が一部あったことを踏まえながら、来年度しっかりと取り組んで参りたいと考えています。
- 三番の自己評価について、中間評価も踏まえながら取組を進めて参りました。当然ですが児童と保護者の思いや願いをしっかりと踏まえながら、教職員総意として取り組んで参りたいと考えています。
- 四番の次年度の経営方針になっているかという点につきましては、これまで成果が得られたものは当然として更なる高みを目指して取り組んでいきます。また、課題のあったものについても、創意工夫しながら改善をしていきたいと考えています。いずれにしろ、月形の子どもたちがこれからの未来を生き抜くために、夢や希望の実現に

むけて成長を実感し、学びを広げる学校づくりを進めて参りたいと考えています。

- その他として、記載をさせていただきましたが、今しがたお話もありましたが義務教育学校の開校にむけて小学校、中学校連動しながら進めていきたいと考えています。では、これから先は、パワーポイントで説明をさせていただきます。
- 学校評価に関わってです。アンケートの結果からです。このパワーポイント資料はお手元にはございませんので、大変申し訳ございませんがスクリーンを見ていただければと思います。
- まず児童アンケートです。
- 本日別冊でアンケートの集計結果はお手元にありますが、その中からいくつか抜粋をさせていただきます。
- 児童のアンケートです。「授業は分かりやすいですか」令和6年11月、95%が肯定的な評価、素晴らしいですねと普通は95%なら思うんですが、ただ否定的つまりそうではないと回答している子も5%います。本校の児童数がざっくり80名でございますので、数名が授業が分かりやすいかといわれたら否定的な回答だった。こういった子どもたちをやはり何とかしていかなきゃならないと考えています。
- 「先生は分からないことを教えてくれますか」同じようにですね。2.5%本当に一部なんですけれども、先生が何回も何回も教えてくれるけれども分からないのか、それとも先生がそこまで僕のところには来てくれないという回答なのか、いずれか分かりません。いずれにしろ肯定的な回答をしている子が多いのは間違いはないですが、そういったことを考えている子どもたちがいるということを踏まえながら教育活動を進めなければならないなというところを改めて実感してところです。
- 「読書は好きですか」昨年度の結果と概ね変わらないんですけども、やはり活字離れが進んでいるところです。全体で15%強の子どもたちが、あまり本を読んでいないと解釈できるのではないのでしょうか。やはり読解力は大切であるということも今一度再確認しながら進めていきたいと考えています。
- 「あなたは毎日朝ごはんを食べていますか」これは正直学校だけでは全く対応できません。保護者の皆さん、PTAの皆さんの協力がないとできないところになります。6%程のお子さんが否定的な回答。Bと回答しているところも17.5%。Bというこ

とは毎日ではないけれども、ほぼ毎日なのか時々なのか食べてはくる時もあるよ。というような回答となります。毎日しっかり食べてくるよ。というのが76%ではあるのですが、そこはご家庭の協力も得ながら、朝ごはんの大切さを訴えていきたいなと思っております。学校の方では養護教諭が日々の保健だよりを出しながら、朝ごはんは大切です、頭の活動のためには大切ですとアピールしてるんですが、なかなかこのところが100%にはならないところです。

- ・ 保護者アンケートです。

「お子さんは楽しく学校に通っていますか」AとBを足し算します。肯定的な評価がざっくり90%くらいあるので一般的にはいいなというように考えるとところなんです、それでもCとDが否定的、Eが分からないという回答です。そうすると10%近くが否定的または分からないという状況になります。やはり子どもたちが楽しく学校に通うというところをしっかりと進めていきたいと考えています。

- ・ いじめの件です。

経年変化は見たくなかったんですが、昨年度の11月の数値を見るとですね、大きく今年度の数値が下がっているところがあります。学校として適切に対応しているつもりではいるんですけども、それでも15%強の保護者の方からは学校の対応は甘いんじゃないかなというお叱りのご意見なのかなと考えております。

- ・ 同様にですね「子どもたちの悩みや問題に適切に対応していますか」の設問に対して15%程がそうではないという回答をいただいていますので、このところもしっかりと学校として次年度の方向性の中で取り組んで参りたいと考えています。

- ・ 「お子さんは人を思いやる心が育っていますか」ここはぜひ経年で見ただければと思いますが、昨年度の結果よりも今年度の方が大きく進んでいる。子どもたちの優しさ、思いやりの心、こういったところは教育活動の中で育んでいくことができたかなと考えています。ただ、3と付いている若干否定的回答も3件ありますので、ここをなんとか来年0にしたいというのが本音でございます。

- ・ いただいたご意見、ご要望のなかにできるだけ早く連絡をいただきたい。それぞれの先生で対応の仕方が異なる。いじめとかそういったことがあったときに根本が解決してないんじゃないか、そういったご意見もいただきましたので、ここを真摯に受け

止めながら可能な限りの取組を進めて参りたいと考えています。

- ・ 教職員のアンケートについてです。

教職員、「経営方針の具現化に向けて組織的に取り組んでいる」今年度、全教職員から肯定的な評価をいただきました。Bの方が多いんですけども、肯定的な評価をより高めるといって進めていきたいと考えております。

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」、こういった授業力の向上を図っているか」これについても教職員がですね本当に真摯に取り組んでいると考えています。本校研修部の教員が先頭に立って先生方の研修や授業力向上に向けた取り組みを進めている成果かなと考えております。

- ・ 「将来への生き方と自己実現を進めるため教育活動を組織的に行っている」か、25%がちょっと否定的なところがありますが、昨年度よりも向上している部分がありますので、こういった子どもたちの自己実現を進めるための取組を来年度さらに充実させていきたいと考えているところです。

- ・ こういったことを踏まえながら来年度の経営方針の案を提示させていただきます。

「夢や希望の実現に向けて」と、このフレーズは今年度私が赴任してからずっと使っている言葉でございます。学校は当然のごとく学力を確かにつけること、より良い人間関係を構築すること、この二つが学校づくりの基本であることは間違いありません。この二つを進めながら、どのようにしていくのか、私たちが何ができるのか、何をすべきなの、どんな教育活動を進めるのかということを考えていきたい。そこには義務教育学校の開校ということもありますので、中学校との連動も踏まえながら、輝く笑顔、満足度100%、これをフレーズとして子どもたちの教育活動を展開していきたいと考えています。大きな重点とすれば夢や希望の実現に向けて成長を実感し、学びを広げる学校づくりということで、子どもたちが学んだことを将来にわたって活かす、そのことが人の役に立ち、地域の役に立つ、そして更には自分自身の人生を豊かなものにしていく、そういったことを笑顔と満足をキャッチフレーズにしながら教育活動を進めていきたい。本年度も積極的に取り組んできたんですが、ふるさと教育、キャリア教育、各種地域の資源を積極的に活用しながら、本物にふれる、専門家に学ぶ教育活動を更に充実させながら、子どもたちの夢の実現の一助にしたいと考えています。

今年度だけで終わるものではなく、来年度以降も持続可能な教育活動を進めていきたい。

- ・ めざす子ども像は真ん中に大きく三つ記載をしています。夢に向かって粘り強く取り組む、元気なあいさつと思いやり、健康でたくましい、そういった子どもたちを先程の経営の重点と共に進めていきたいと考えています。
- ・ 更にその重点を大きく5つに分けています。  
一つ目に主体的、対話的で深い学びを、いわゆる授業づくり。二つ目に学級づくり、三つ目に地域と共に地域社会づくり、四つ目に健康な体づくり、五つ目に安全・安心な学校づくり、観点を決めながら教育活動を進めていきたいと考えています。
- ・ 学校の方は、組織的・協働的な取組。中学校進学、義務教育学校開校を見据えて、専科や交換授業を推進していきたい。先生方の専門性や得意分野を活かしていきたい。そのために先生方には今求められる教育活動の学びを深めていっていただきたいと考えています。
- ・ 教職員の人的配置関係です。令和5年度と令和6年度加配をもらっていました。5年度は理科、今年度は算数で加配をいただいています。令和7年度は、今現在申請をしているところで、概ね今年度同様、算数での加配をいただける見込みです。
- ・ もう一つは体育エキスパート教員巡回は、体育科の専門教員がベース校は岩見沢南小ですが、岩見沢市内で他校1校、岩見沢市以外の市町で1校、巡回をしながら授業をする。そこに本校も加わる形で、週一回程度、体育の専門家教員が本校に来て、本校の職員と共に体育の授業を進めようと考えています。
- ・ 下のほうに写真を載せていますが、こういった活動も来年度も継続していきたいと考えています。以上です。ありがとうございました。

#### 【高畠会長】

- ・ ただいま「令和6年度月形小学校学校評価及び令和7年度月形小学校学校経営方針（案）について」説明がありました。
- ・ 評価と経営方針につきましては、分けて審議いたします。まず、「令和6年度月形小学校学校評価について」ご質問等がありましたらご発言願います。

(質問なしの声あり)

【高島会長】

- ・ ご発言がないようですので、「令和6年度月形小学校学校評価について」を承認することとしてよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

【高島会長】

- ・ 「令和6年度月形小学校学校評価について」は承認されました。
- ・ つづいて、「令和7年度月形小学校学校経営方針(案)について」ご質問等がありましたらご発言願います。

(質問なしの声あり)

【高島会長】

- ・ ご発言がないようですので、「令和7年度月形小学校学校経営方針(案)について」を承認することとしてよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

【高島会長】

- ・ 「令和7年度月形小学校学校評価について」は承認されました。
- ・ つづいて「令和6年度月形中学校学校評価及び令和7年度月形中学校学校経営方針(案)について」橋本校長説明願います。

【橋本委員】

- ・ 中学校は今受験前で結構ギリギリしている状況です。21名中10名が内定をもらっています。残り11名がこれから公立高校の一般入試に向かうことになっています。去年くらいから公立高校の入試の仕組みが変わって、学校推薦がなく、自己推薦になっているので、みんな自由に推薦を自分から手が挙げられる状況ですので、今までと変わった進路指導になっています。
- ・ パワーポイントをご覧ください。道德の授業で南極に行った方たちを呼んで、どんな生活だったかを聞いている様子です。
- ・ 町民文化祭での吹奏楽部ですが、先日アンサンブルコンテストがありましたが、1点足りずに銀賞だったと。かなりレベルが上がっているところです。
- ・ 中高の交流授業は高校生と一緒にダンスをやっています。講師は今先生でした。

- ・ 交換研究会、市内の教育振興会でやっています。今先生の授業と桑原先生の理科の授業を公開しました。
- ・ 職業体験、色々なところにお邪魔しました。こども園、聖母園の他にも色々お邪魔します。職業体験ではこんなこともさせてもらっています。感謝いたします。
- ・ 先日スキー学習は、上葛次長にやってもらっています。本当にレベルの高いスキー授業をしていただきました。
- ・ 学校評価の部分で、話をさせていただきます。今年度の重点目標は、確かな学力と可能性を引き出す、この二点です。
- ・ 後期の学校評価で、教員アンケートです。これは簡単におさらいさせてもらいたいと思います。青色のところが大体良いだろうという3.0を超している部分ですので、細かい数字を見ていくと時間がかかりますので、あとでご覧ください。黄色のところはちょっと課題だねという部分ですので、教職員からは生徒指導の充実、キャリア教育の推進、働き方改革の推進がまだ課題があるという自己評価をしています。
- ・ その他、係の仕事についても皆さんそれぞれに高い自己評価をしています。これは教職員の自己評価というところです。
- ・ 大事なものは生徒アンケートです。生徒アンケートがどういう変容をしているかというのが、やっぱり肝です。分かる授業、一人一人の良さ、ICTの活用、道徳の授業、学校教育の充実、相談体制については概ね80%を超している状況になっています。ただ、いじめの未然防止、つまり生徒指導に関わる先生たちの対応について、前期は89%で良かったんですけども、今回75%ですので15%程度下がっている、これは何らかの原因があることが考えられます。
- ・ 学習内容相談できてますか、ということ3割以上が相談できていない。ここはいいとし、やはりうちの学校課題としては、計画的な勉強、授業の予習・復習このあたりが5割またはそれ以下で課題となっていると考えます。
- ・ その他、学校が楽しい、将来の夢や目標、先程、島校長も夢という言葉キーワードとして挙げましたが、この辺は学校としてキーワードとして注目しなければなりません。特に学校が楽しいというのは、前期71%が肯定的回答ですが、68%に下がっています。本当は、「よく当てはまる」が100%これが最終目標だと思っています。

す。それを見ると30%しかイエスという人がいない。これは大きな課題です。

- ・ この表は一人一人の様子をいっぺんに並べた表になります。上に載っている項目が先程示した質問の項目になります。青と緑が「イエス」、「まあイエス」です。つまり黄色と赤が多いとその子にとっては否定的な回答をしている。これが前期の回答です。
- ・ これが後期の回答になります。上は項目として黄色と赤が多い、横は個人的は緑になります。つまり、どの子がどれだけ信号を送っているかが分かります。縦軸は学校の課題、横軸は個々の課題となっています。よく全体のパーセントとかありますが、小人数ですので全体のパーセントといってもしれてることで、誰がどんな回答をしているというのを全員で把握していかないと、小人数の良さを出すことができないので、これを先生方に、誰がどんな回答をしたのかを全部知らせました。これを学校・学級経営、教科経営をしっかりと反省として生かしててくださいね。と伝えました。
- ・ 保護者アンケートです。
- ・ 指導内容、指導方法については若干イエロー信号が出てしまいました。その他、家庭学習への働きかけも家庭としては不十分だなと感じています。先生への相談体制も学校に通う楽しさ、将来の夢や目標、やはり相似形になる。生徒と親は相似形となることが明らかになりました。
- ・ いじめアンケート。10月の時点でのいじめを見たという人が3名で、担任を中心に教育相談をして、それぞれ対話をしてもらいました。それぞれの事案は一応解消していることになっているけれども、継続的に見えています。
- ・ これを踏まえて、僕なりのアンケートを別にしました。校長アンケートです。ICTを使って、生徒に一斉配信して、一斉回収しました。
- ・ 「ICTの端末の活用について」は、授業中だけ活用できているけど家庭学習では活用できていない。
- ・ あと「学習内容が分かりやすい？」と言っていますが、全体として「わかりやすい」
- ・ ただ校長アンケートでは各教科でとりました。各教科で、「楽しくてわかる」、「楽しいがわからない」、「楽しくないがわかる」、「楽しくないしわからない」。この4項

目で全教科とりました。

- ・ 「楽しくてわかる」は最上級にいいですよ。2番目ってどれがいいと思いますか。「楽しいけれどわからない」授業と「楽しくないけれどわかる」授業のどちらが上だと思いますか。これは先生によって違いました。先生によって、楽しくないけど分からないとだめだという先生もいれば、僕はその逆です。分からないけど楽しいんだというところを植えつけないと将来、学びというのが楽しくならないと考えます。
- ・ 人それぞれありますが、教科ごとに理解が違うというのを先生方は理解してね。と話をしました。これでは青いが「楽しくわかる」、教科によってばらばらだというのがわかると思います。先生方にとっては痛いことだと思います。自分の教科がわかるので。ただここを見ないと、やっぱり乗り越えられない教科指導ではあるので、意識してもらいたいと思います。
- ・ 家庭学習において偏りが出ないように計画的に勉強しているか、これは設問が悪いです。偏りはないけど計画的な人はいるし、アンケート質問としては良くないと思います。否定的回答59%家庭学習を計画的にできていない。
- ・ 「学校に通うのが楽しい」、さっき島校長は80%でまだまだと言っていました。中学校は否定的回答は32%で7割以下です。小学校には足を向けて寝られないです。ただ、一つ良かったのが、「まったく当てはまらない」が前期6名でしたが、後期3名になったので3名は「まったく当てはまらない」から一歩踏み出した、これはちょっと嬉しいなと個人的には思います。
- ・ 校長アンケートでは、「学校でどんなことがストレスや悩みの原因？」ですかと聞きました。授業内容が難しいこと、人間関係ここがストレスになっているそうです。
- ・ 「学校にいて楽しいことはなんですか?」、ダントツは休み時間です。第2位が部活動で、第3位が給食。教科となると18.2%しかいない。総合的な学習、道徳など全部授業です。授業をどう楽しくするのが課題です。課題としてあげたのは計画的学習、予習・復習、学ぶ楽しさ、将来の目標を先生方にうちの課題はこれだよ、全ての生徒が主体となる学びの実現だよと、学びの基本に立ち返って学びの楽しさを子どもたちに伝えてほしいなど、僕の願いで先生方に伝えました。
- ・ 次年度に向けて、重点目標を変えました。「自らの学びをデザインし、自己実現を

追及する生徒の育成」。色々グランドデザインは書いていますが、文字がたくさん書いてあるから、ポイントを絞って説明します。「すべての生徒が主体となる学びの実現」に向けて何を考えていたかという点。

- その一つ目が学ぶことの楽しさを実感できる教科指導の検証を進めていきましょう。
- 二つ目は授業時数特例校制度の活用で個人探究活動を創設します。
- 三つ目は単元別テストを実施し、思考力、判断力、表現力を高めます。ノートを持ち込んでいいテストを実施するという点です。
- 四つ目は ICT 端末の活用した学習、スタディサプリです。空知の学校で小学校、中学校でスタディサプリを導入している学校はありません。高校では何校かあります。これは今、予算要望で教育委員会に一番通してほしい予算です。
- 五つ目は、自律的な学習習慣。先生が大量の宿題を持たせるのではなく、子どもが自分なりの学習習慣を身につける点です。
- これがスタディサプリです。例えば到達度テストをこのアプリで出だしたり、あと動画。学校の授業はその瞬間を逃すと永遠にその授業は見れないですが、スタディサプリでは「1回この動画を見ておいて、次の時間この内容やるから、予習しておいて」ということができます。ICT で自律的な学びを確立する。空知教育局もかなり目玉として見てます。
- この五つを柱として次年度学校経営をしていきたいし、新しい教育をスタートさせたいと思っています。
- 【月中チャレンジ】という名前を付けました。一つ目は授業時数特例校の活動、二つ目は単元別テスト、三つ目は学校改善です。
- 個人探究活動ですね。これは何かというと標準時数それぞれの授業は決まっていますが、その中である教科を減らして、ある教科を増やしていいですよ。この制度を使って来年度は個人探究の時間を1～2年生では30時間、3年生では20時間設定しました。本当はこの倍欲しかったんですが、先生方と色々議論する中で、とりあえずこれでいきましょう。コンセプトは教師が教えるから生徒が学ぶ、「問い」から始まる自己実現、やらされる課題じゃなくて、自分発の課題、自分なりの解決、伝え

方、そしてそれを繰り返すことで「学んだな」「楽しいな」と自己実現をステップアップさせたいと考えています。

- 課題の設定、情報の収集、整理分析、まとめ・表現。基本は探究のサイクルはこれになります。これをぐるぐる回す。探究活動で育つ力は、自らが課題を見つける。取り組む探究の過程で「思考力、判断力、表現力等」の質を高める。方法はみんな同じなんです。課題はみんな違うというのがとても大事で、今までの中学校の総合的な学習時間は大きなグループ学習をさせているんです。グループ学習をさせると、そのグループでできる子が活躍し、できない子は埋もれてしまうというのが非常に多くて、今回は一人一課題なので、どんな子でも自分の興味関心に合わせた。レベルはいいですよ。自分がラジコンが好きだからラジコンの歴史を学んで、今どんなことになっているのか、でもいいんです。探究学習で期待される生徒像は、学ぶ楽しさを実感する。当然学校は楽しいですね。自己肯定感の向上、自己調整力の向上、全国学力テスト、CRTのテスト向上を考えています。
- 二つ目です。単元別テスト。今までの定期テストはとても良い面がありました。学校全体として統一した取組ができる。学習への喚起ができる。相対的な立ち位置がわかる。つまり難易度が上がる。客観的な評価材での収集。保護者の皆さんもこれで育ってきています。
- ただ定期テストの弊害としては、範囲が広くすべて学習しきれない子どもがいる。一夜漬けになってしまう。学校行事で影響が出てしまう。この期間は部活動は止め、この期間は行事は入れられないとか。成績評価が定期テストに偏り過ぎる。日頃の評価をしないでここで偏ってしまう先生がいる。テストが終わると学びが止まる。
- 単元別ノートのねらいですが、指導と教科の一体化、そして、自主的学習習慣の確立です。主体的な学習習慣、今週は社会の単元別テストがあるから社会に集中したい、主体的な学習習慣を身につけさせたい。テスト作成の負担軽減を考えています。単元別にすると単元ごとのテスト問題を配置すればいいんですけども、定期テストになると問題範囲を区切られるので、つぎはぎされた範囲のテストを作らなければならない。
- こんなイメージですね。子どもたちに年度始めに提示して、これに合わせて勉強し

てもらおう。当然ノート持ち込み可なので、何が起きるかというのとノートを充実させるんです。つまり自動的に家庭学習を増やす手だてとなります。

- 具体的な取り組みとしては、教科ごとの計画ができるし、ノート持ち込み可なので先生方のスキルも上がる。これ以外にもレポートや過去問テストで多角的・多面的な評価を先生方にしてもらいたいと思います。家庭学習の位置づけですね、スタディサプリもそうですが、いかに自己調整をしながら自分で学びを作ってもらいたいと思います。
- 組織マネジメントですが、今まで教育計画委員会があつて基本的に学校行事の中でも進めてきたんですが。教頭先生以外、教務、生徒指導の2人、研修係1名を入れて、名前を「学校改善チーム」にしました。教育計画委員会となると計画したら終わりという気がしてしまうんですが、学校改善のチームですよと、即先生方に対応してもらおう意識改革をしました。
- 不登校は新聞報道で34万人になっています。小中学生の人口は13万人減ってるのに4万7千人増えているんです。いじめも増えています。
- これからの社会は色々な社会、変動制があつて不確実性で、複雑性で曖昧性と言いますね。こういう社会はこれから来るし、多様性、少子高齢化、転職の時代。僕が高校生の頃は転職の商業はほとんどなかったんですが、今叫ばれているのはリスキリング。もう一度スキルを身につけなさい、学び直しなさいという時代が来ます。
- チャットGPTで2040年に必要な力は何かと聞いてみました。思考力、判断力などでした。英語ならどれくらい必要ですかと聞いてみると、2級から準2級が必要だと答えました。つまりみんな月高に行ったら留学できるということです。これからは予測困難な時代ですので、社会に立った時自分でどういう学びを培っていくかを、来年計画の柱としていきたいと思います。説明を終わります。

#### 【高島会長】

- ただいま「令和6年度月形中学校学校評価及び令和7年度月形中学校学校経営方針(案)について」説明がありました。
- 最初に「令和6年度月形中学校学校評価について」ご質問等がありましたらご発言

願います。

(質問なしの声あり)

【高島会長】

- ・ ご発言がないようですので、「令和6年度月形中学校学校評価について」を承認することとしてよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

【高島会長】

- ・ 「令和6年度月形中学校学校評価について」は承認されました。
- ・ つづいて、「令和7年度月形中学校学校経営方針について」ご質問等がありましたらご発言願います。

(質問なしの声あり)

【高島会長】

- ・ ご発言がないようですので、「令和7年度月形中学校学校経営方針について」を承認することとしてよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

【高島会長】

- ・ 「令和7年度月形中学校学校経営方針について」は承認されました。
- ・ この後、部会協議となりますが、(3)その他を行い協議会は終了となります。

(3) その他

- ・ では(3)その他に入ります。委員の皆さんから何かご発言がありますか。

(発言なしの声あり)

【高島会長】

- ・ 事務局から何かありますか。

【五十嵐事務局】

- ・ 本日の結果復命が終わりましたらCS通信を作成し、広報折込により町内全戸配付する予定です。委員の皆さんには、CS通信と本日の結果復命を送付いたします。
- ・ 次年度の協議会についてですが、令和7年度は委員の任期の2年目ですので、委員委嘱を行わないことから年度当初の協議会開催は行いません。本日、令和7年度の経

営方針が承認されましたので、個別案件がなければ、小・中学校で中間評価がまとまる9月以降に第1回協議会を開催する予定です。

- ・ 以上です。

#### 4 閉 会

##### 【高島会長】

- ・ これで令和6年度第3回月形町学校運営協議会を終了いたします。
- ・ 引き続き、(2)部会協議を行います。各部会協議が終了しましたら、それぞれ流れ解散となります。
- ・ 各部会長よろしく申し上げます